


平成18年2月28日

豊橋技術科学大学長 殿

審査委員長 渡邊昭彦 

論文審査及び学力の確認の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

記

学位申請者	山田 悠未	報告番号	第 197 号
申請学位	博士 (工学)	専攻名	環境生命工学
論文題目	華人新村研究 ー都市地域史の視点から		
公開審査の日	平成18年2月20日		
論文審査の期間	平成18年1月25日～平成18年2月27日	論文審査の結果	合格
学力の確認の日	平成18年2月20日	学力の確認の結果	合格

論文内容の要旨

本論文は、マレーシア華人新村に対する定説を都市地域史の視点から再評価し、新たな視点を提示したものであり、全6章から構成されている。この新村は、第2次世界大戦後の共産運動鎮圧のために、イギリス植民地政府が華人スクウォッターの収容と管理を目的として建設した再定住地である。


新村は共産化を防ぐ応急対策的な計画から始まり、これまで既往研究では拘留キャンプのような無計画なものとの説が定説であったが、申請者は、居住地としてある程度の計画がなされていたと仮定し、1) 計画、建設のプロセスと、2) 新村の住環境整備の実態を明らかにするために、現地で通算1年弱15村の詳細調査と15村の概要調査を行い、当時の公文書の読解、官庁や住民調査から得た資料を分析した。その結果、新村はブリックスプランに基づき、コミュニティー形成という明確な目的の上に公共施設等の施設設備計画、当時としては良好な住環境の計画がなされ、少ない人員で効果的に良水準の新村建設を行うため、南部から集中的・段階的に実施されたことを明らかにした。このようにして完成した新村は当初から良好な住環境が整備され、そこで生活基盤がつくられ、非常事態解除後も存続し、582に及ぶ地方都市の骨格ができあがったことを明らかにした。

審査結果の要旨

本研究は、マレーシア近代期の地方都市の建設をテーマにし、既往研究の問題点を洗い出した上で、新たな仮説を立てて、研究の出発点とした。この仮説を実証するために、海外で1年弱の長期に渡って文献調査、現地の村の施設整備及び住環境調査、現地の人々からの聞き取り調査等を実施し、必要なデータを収集している。以上の多数のデータを詳細に分析し、また断片的な関連情報をつなぎ合わせ、当初の仮説が正しいことを明らかにしている。本研究の主要部分である3章から5章は、日本建築学会計画系論文集に2編の査読付き論文として掲載され、外部からも論文としての内容が評価されている。研究の位置づけに若干の曖昧さがあるものの、独自のテーマを形成し、海外調査を通じて困難なデータ収集と分析を行い、妥当な結論を導き出したことは高く評価される。

以上により、本論文は博士 (工学) の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

渡邊昭彦 

印

泉田 英雄 

印

大貝 彰 

印

(注) 論文審査の結果及び学力の確認の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。